



### 7月を振り返って

7月の教職課程センターは、個人面接練習に力を入れてきました。1人20分の面接練習×3回+外部講師による面接への参加、という流れで予定を組んで実施いたしました。面接は特殊な環境で初対面の面接官に、①自分がどんな人間であるのか【人間性】②なぜ教師を志望しているのか【志望動機】③自分にはどんな適性があり教師としてどんな役割を果たすことができるのか【適性・強み】④どんな教師を目指しているのか【将来性】⑤そのために今どんな準備をしているのか【努力】をアピールする場面です。絶対に受け身になってはいけません。面接官をプッシュするぐらいの心構えで丁度よいです。むしろ面接官は自分をプッシュしてくれる受験生が現れることを楽しみにしています。(私もそうでした)ですから個人面接の場面では上記①～⑤の項目について、しっかりと自分の言葉で語れるように準備をしてください。「どんなことを聞かれるんだろう・・・」「答えられなかったらどうしよう・・・」など受け身に弱気の気持ちは必ず態度に出ます。(見抜かれます)そうではなく今まで取り組んできた成果発表の場だと思って、自信をもって堂々とプレゼンテーションしてください。詳細は後述いたします。

### 8月の予定

#### 個人面接練習 (夏季集中)

2日(火) 3限、4限

3日(水) 3限、4限

4日(木) 3限、4限

16日(火) 4限

17日(水) 4限

18日(木) 4限

場所はすべて西館演習室1

いよいよ2次試験直前ですね。6月7月に引き続き最後の集団討論練習と個人面接練習を実施いたします。本番モードで行いますので是非ご参加ください。皆さんが合格を勝ち取るように全力でサポートいたします。ここまで来たら自己暗示をかけてください。「私はできる!」「Yes.I.can!」です。ハートはホットに、でも頭はクールに、面接を楽しむぐらいの心構えで臨みましょう!

#### 集団討論練習 (夏季集中)

16日(火) 3限

17日(水) 3限

18日(木) 3限

場所はすべて西館演習室1



### 個人面接の流れ (東京都)

- 集団面接終了後、待機時間の後、すぐに実施される。しかし一人当たり30分間行うのでもし5人目に当たると2時間待ちとなる。
- 面接官は3人、時間は30分間
- 受験者があらかじめ作成し、当日提出する「面接票」及び「単元指導計画」を基に質疑応答を行う。
- 個人面接では場面指導に関する内容も含む。
- 3人の面接官が役割分担して、質問を行うことが多い。
  - 例 A面接官 面接票に記載されている内容について質問する。
  - B面接官 単元指導計画について質問する。
  - C面接官 場面を設定し、場面指導について質問する。

## 面接票・単元指導計画について（東京都）

### ◆面接票について◆

- 指定された書式に記入していく。
- 面接官は面接票に書かれている内容を質問してくるので、「**読んでほしい内容**」のみ記載する。
- 作成した面接票は原本とコピー2部の計3部を試験日に提出する。
- ボールペンを使い、自筆で記入する。（鉛筆不可）記入ミスをしたら二重線で消して、訂正印（自分の印鑑）を押し余白に記入する。（修正液使用不可）

### ◆単元指導計画について◆

- 第二次選考（面接）の選考日当日に、**単元指導計画を4部持参する。（用紙は白色）**
- 1次試験合格者に配送される文書にある、単元指導計画作成上の留意事項を必ず確認する。（昨年度と変更点がある可能性もある）
- 指定された書式（次ページ参照）を基に、各自で作成する。B4判を縦向きにし、**横書き1枚（片面のみ）**で作成の上、**所定の位置に受験校種等・教科(科目等)、受験番号、氏名**を書く。サイズ違い、書式違いは減点の対象です。
- 必要な項目（1～7）について記述する。ただし、ここに示した項目の書式（体裁）は例であり、各教科の特性、単元や題材に応じて変更しても構わない。
- 書式例の項目6については、省略せずにすべての時間について記述する。
- 単元指導計画の作成に当たっては、**中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）**に基づいて作成する。（必ずチェックする）
- 第二次選考（面接）の選考日当日に、**単元指導計画を4部持参する。（用紙は白色）単元指導計画の原本とコピーは、同一のものを持参する。**（コピー忘れは減点です）なお、単元指導計画に書き込み等をしないこと。面接時には教材・教具の持ち込みはできません。

## 個人面接の評価規準（面接官がチェックしている項目）

- 「**専門性**」 指導教科の専門性を有しているか。
- 「**適性**」 子どもから信頼されるか。同じ職場で働きたいと思うか。
- 「**人柄・人間的魅力**」 明るさ・前向きさ・意欲・強い意志・熱意・使命感。
- 「**対応力・適応力・職務遂行力**」 状況を判断し、正しい行動がとれるか。
- 「**将来性・協調性**」 向上心をもって職務に臨めるか、周囲と協調できるか。
- 「**レジリエンス（打たれ強さ）**」 ストレスに対して耐性があるか。
- 「**心身の健康**」 持続的体力・精神力があるか（スタミナ）

## 面接票から聞かれる質問（例）

- なぜ教師を目指したのか。
- なぜ数学・理科の教師になろうと思ったのか。
- なぜこの自治体の教員を目指したのか。
- この自治体の教育課題は何か。
- 高校・大学時代に部活動や委員会活動でどんな活動をし、そこから何を学んだか。
- 自分の得意分野で学校教育に生かしたいものは何か。
- 大学生生活で成果を上げた経験は何か。
- 大学での専攻を、中学・高校での指導にどのように生かすつもりか。
- 教育実習で学んだこと、苦労したことは何か。

- 数学・理科の学習を通して、生徒に身につけさせたい力は何か。
- 数学・理科が苦手な生徒に数学・理科の魅力をどのように伝えるか、やる気を引き出すか。
- 数学・理科の授業で、一番大切にしたいことは何か。
- 勉強が苦手な生徒にどのように指導するか。
- 得意な指導分野について説明してください。
- 支援が必要な生徒がいたときにどのように対応するか。
- 自分が誇りに思うことは何か。
- アクティブラーニングとはどのような学びの姿か。

## 単元指導計画から聞かれる質問（例）

- なぜこの単元を選んだのか。
- なぜこの単元が大切だと考えるのか。
- この単元で生徒に身につけさせたい内容は何か、そのためにどのような指導をするのか。
- 単元の目標を達成するためにどのような教材を使うのか。
- この単元で生徒がつまずく可能性があるのはどの部分か。
- つまずいた生徒に対してどのような支援をしていくのか。
- この単元で最も大切だと考えられるのはどの時限か、それはなぜか。
- この単元で言語活動を行うのはどの部分か。

- 生徒同士の話し合いを深めるためにどのような工夫をするのか。
- 主体的に学習に取り組ませるために、どのような支援をしていくのか。
- この単元はどの教科と、どのような関係にあるのか、他教科との関連について述べよ。
- この単元は特別活動と関連しているか、だとすればどの点で教育効果をあげられるのか。
- 生徒が理解できたかどうかは、どのように判断し評価するのか。
- どのような資料で評価するのか、何ができればA評価になるのか。
- 学習意欲を高めるための工夫は何か。

## 場面指導に関して聞かれる質問（例）以下のケースにあなたはどのように対応しますか？

- 保護者から「子どもが学校に行きたくないと言っているので休ませます」と電話があった。
- クラスの生徒がいじめの被害を訴えてきた。「誰にも言わないで」と言われた。
- 清掃当番に当たっているのに、さぼって部活に行った生徒がいる。
- 生徒から「悩みを聞いてほしいのでLINEでつながりたい」と言われた。
- 子どもが学校に行きたがらないので、朝迎えに来てほしいといわれた。
- 実技教科の授業中に、塾の課題をやっている生徒がいると報告があった。
- 「うちの子は足が速いのになぜリレーの選手になれないのか」とクレームの電話があった。

- 理科の実験の時、薬品が目に入ったと生徒が訴えてきた。
- 授業中に殴り合いのけんかが発生した。
- 授業中に許可なく教室から出ていこうとする生徒がいた。
- 5時間目に教室に入ると泣いている生徒がいた。昼休み中に何かあったらしい。
- 次のクラス替えで、仲の良い生徒と必ず一緒にのクラスにしてくださいと言われた。
- 定期考査で90点以上取っているのに5がつかなかった。評価を変えてほしいと言われた。
- 授業中に関係ないおしゃべりを続ける生徒のグループがいる。

アクティブラーニングとは、学習者が主体となり、能動的に学習を進めていく授業形態のことを指します。昭和から平成にかけての学校教育は「講義」形式が中心で、授業者が一方的に知識を伝達し、学習者は話を聞いて受け止める【受け身の姿勢】が主流でした。確かに40人学級で一斉授業を効率よく行いカリキュラムを消化していく点では、一定の成果を上げてきたのですが、平成から令和となり、教育に求められる価値観も変化してきました。6月号でお示したように、現行の学習指導要領でも育成すべき資質能力については、①何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）と規定しており、【何を知っているか】だけでなく【知識をどう使うか】【社会や世界とどうかかわっていくか】という【How～ どうやって】を重視した教育活動にモデルチェンジしていきっています。このような価値観を重視すると、必然的に「①子どもに体験させ」「②対話させ」「③知恵を出し合いながら問題解決を経験させ」「④振り返らせる」取り組みが必要になります。ですからアクティブラーニングは、時代の変化に対応し、先が見えにくい現代社会【地球温暖化・ウイルスの蔓延・食糧難・難民・国際紛争など】をたくましく生き抜いていく力を生徒に身につけさせていくために、必要な手法と言えるでしょう。

アクティブラーニングの3要素【主体的学び】【対話的学び】【深い学び】とは何か・・・？

授業改善の視点

主体的な学び

- 学ぶことに興味関心を持たせる
- **自己のキャリア形成と関連付けさせる**
- 見通しを持って粘り強く取り組ませる
- 自己の学習活動を振り返って次につなげさせる

子どもの学びの姿

- 興味関心を持つ
- 問題意識を持つ
- 自己の課題を持つ
- 解決方法を計画する
- **既習内容や他教科と関連付けて生かす**
- 新たな気付きを生み出す
- 粘り強く取り組む
- 解決の過程を振り返る

授業改善の視点

対話的な学び

- 子ども同士の**協働の場面を設定する**
- 教職員や地域の人々との**対話を増やす**
- 先哲の考え方を手掛かりにして考えさせる

子どもの学びの姿

- 改善点を見出す
- 新たな課題に気づく
- 成果や課題を自覚する
- **互いの考えの良いところ**に気づく
- **互いの考えの違い**に気づく
- より良い考えを見出す
- 考えを統合する
- 考えの**妥当性を吟味・検討**する
- 先哲の思いや願いをとらえる

授業改善の視点

深い学び

- 各教科の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせる
- 知識を**相互に関連付けて**より深く理解する（**教科横断**）
- 情報を精査して考えを形成する
- 問題を見出して解決策を考える
- 思いや考えを基に創造する

子どもの学びの姿

- 考えを再構築する
- 学びを自覚して、実践する
- 知識を**相互に関連付けて**考える
- 問題を発見し、解決方法を考える
- **他の単元（題材）や教科と関連付けて**考える
- **自分の生活や社会につなげて**考える

授業者の意識

社会とのつながり

言語活動の充実

探求的学習場面

他教科との連携